

水難救助に端を発した

日本・スペイン・メキシコ三国の交流

千葉県夷隅郡御宿町

千葉県御宿町岩和田の太平洋を見下ろす丘には、高さ17メートルの「日・西・墨三国交通発祥記念之碑」通称「メキシコ記念塔」という白い石碑があります。この記念碑は次の史実に基づき建立されたものです。

今から400年を遡る慶長14年（1609年）9月30日の未明、一隻のガレオン船が現在の千葉県御宿沖で座礁しました。

船はサン・フランシスコ号約千トンで、フィリピン諸島のスペイン臨時総督の任を終え、マニラからノビスパン（当時のスペイン領メキシコ）へ向かうドン・ロドリコを長とする一団が乗り組んでいましたが、嵐に遭い、2ヶ月間太平洋を漂流した後のことでした。

船には373名が乗船していましたが、56名は死亡し、317名が命からがら浜に漂着

しました。これを知った岩和田の村民は大いに同情し、凍えた異国の遭難者を海女たちは素肌で温め蘇生させ、夫の着物を、食料を、惜しみなく提供したと、ドン・ロドリコの「日本見聞録」に記されています。当時人口300人ほどの寒村にとって、多くの遭難者を救助することは容易ではなく、しかも、見たこともなく、言葉も通じぬ異国の遭難者を救うことは大変なことであつたと思われます。

このことは、直ちに領主である大多喜城主本多忠朝（徳川四天王、本多忠勝の次男）に伝えられ、城主の指示により遭難者たちは37日間岩和田大宮寺に滞在し手厚い保護を受けた後、江戸城の將軍徳川秀忠、駿府の徳川家康に謁見し歓待を受け、翌1610年家康が三浦按針に建造させた新しい船で、無事ノビスパンへ帰国しました。

この史実が日本とスペイン・メキシコの修好の契機となり、1928年にはスペイン、メキシコ両国の援助も受け、この塔が建立され、1978年の建立50周年記念式典にはホセ・ロベス・ポルティエリョメキシコ大統領が御宿を訪れ、歴史に培われた友情を更に深めました。

また、1994年からはメキシコ少年野球ナショナルチームの訪日時のホームステイ先として、お互いの異文化に触れ合う地域・家族単位での交流を行っています。





御宿を訪れたポルティエーリョメキシコ大統領

2009年は「サン・フランシスコ号漂着400年」の節目の年となります。

御宿町では、先人が行った偉業を称えとともに、この史実を後世に伝えていくため、様々な事業を計画しています。

※詳しくは、御宿町ホームページをご覧ください。

<http://www.town.onjuku.chiba.jp/>

内浦救難所に海難救助功労表彰を伝達

能登水難救済会

能登水難救済会では、平成20年9月19日、石川県鳳珠郡能都町役場において、社団法人日本水難救済会会長からの海難救助功労団体表彰の伝達式を行いました。

式では、能登水難救済会理事である能登町長から内浦救難所長に表彰状と功労盾が手渡されました。

平成20年4月27日に小型イカ釣り漁船の船長が帰港中にクモ膜下出血を起こし、船が岩場に乗り上げた海難が発生、出動要請を受けた内浦救難所は、能登海上保安署職員と共に現場に向かい、波とうねりで船体が45度傾斜して動揺している船の操舵室の中から、倒れている船長を運び出し救助したものです。

